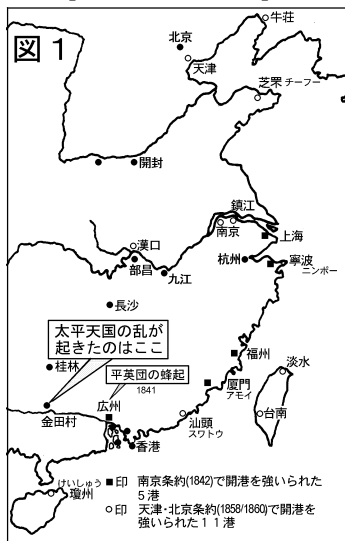


太平天国の乱 1851～64年 中国近代史上最大の反乱！ この最中に第二次アヘン戦争（1856～60年）。

- 1) アヘン戦争（1840～42）の結果、民衆の生活はますます悪化した。
 ①戦費や賠償金支払いのための増税、②【1: 】価格の急騰で更に実質増税、③飢饉も起き、④アヘンの密輸入が公然と行われ、⑤貿易の中心が上海などに移り従来の商業路は衰え、失業者が増加した。
- 2) 【2: 】こうしゅうぜん 1813-64 は、宗教結社【3: 】はいじょうていかい ※1 を結成した。 10W
 スローガンは【4: 】 めつまんこうかん ※2。
 洪秀全は広東省の客家 ハッカ ※3 出身。科挙に数回失敗。キリスト教に触れ、自分はイエスの弟だと信じた。上帝会はキリスト教的秘密結社、上帝とはヤハウェである。平等を主張したので客家、貧農が支持した。上帝会員は辮髪を拒否したので清朝から長髪賊と呼ばれた。白蓮教は弥勒下生信仰の仏教的秘密結社。元代の紅巾の乱も白蓮教徒。
 ※1 上帝会 とも言う。
 ※2 「反清復明」（はんしんふくみん 『【4】』と同じ意味）をスローガンとし、運輸労働者を中心とする秘密組織も華中・華南に存在した。このスローガンは白蓮教徒の乱でも使われた。
 《比較》義和団事件（1900-01）の義和団のスローガンは「扶清滅洋」「除教安民」である。
 ※3 客家は「ハッカ」と読み、本地（ほんち）の反対語。「よそ者」の意味。広東、広西、江西、福建などの山間部や僻地に移り住んだ人々。差別・圧迫を受け、海外移民も多数。
- 3) 1851年1月、洪秀全は広西省 08J の金田村で挙兵し、【5: 】の樹立を宣言した。その主張は、儒教・伝統秩序打破を基調に、次のようなものだった。
 ①「減満興漢」＝清朝打倒 辮髪 べんぱつ 廃止
 ②土地の均分（男女とも） 【6: 】 てんちょうでんぼせいど ……結局実施されなかった！
 ③男女平等 ④租税の軽減 ⑤纏足 てんそく など因習の廃止 ⑥アヘンの除去
 太平天国軍は、江西省の【7: 】 きんでんそん から北上、規律は厳格だった。1853年には武昌を奪い【8: 】を攻略、「天京 てんけい」と改称、彼らの首都とした。この時上記②等を発表。別動隊が北伐と華中支配をねらった。変革の不徹底と内紛で弱体化、1856年以降は内紛が激化して敗北を重ね、1864年に洪秀全死亡。同年、南京が陥落し敗北した。
- 4) 太平天国の乱の歴史的な意義は大きい。
 ①間違いなく中国近代史上最大の反乱。
 ②農民にとどまらずあらゆる社会階層を含む反乱。
 ③民族主義的性格を持つ。スローガンに【9: 】はまだない！真の敵は見えていない。
 ④平等を主張し革命的性格を持つ。民衆の間に語り継がれ、近代中国の民族運動に大きな影響を与えた。
- 5) 反乱は連鎖的に起こり、貴州では先住民ミャオ族（苗族）、陝西・甘粛・雲南ではムスリムの回民が蜂起。安徽では盗賊と農民が結びついた捻軍が活動した。河南・山東・江蘇でも農民反乱は起きた。
- 6) 清朝は太平天国の乱を、列強の進出以上の脅威ととらえたが八旗・緑營の正規軍では手に負えず、地元の有力者が編成した団練が主に郷村を自衛し、郷勇が鎮圧にあたった。郷勇には【10: 】 そうこくはん 1811-72 の湘軍 しょうぐん、【11: 】 りこうしょう 1823-1901 の淮軍 わいぐん などがある。



《団練・郷勇・軍閥について》

団練とは郷紳が組織した郷村自衛のための武装民兵組織。費用は郷紳が私財を投じた。郷勇とは、清朝が八旗・緑營の正規軍の戦闘力不足を補うため臨時に組織した軍隊で、基本的に傭兵から成る政府軍。団練は有力な傭兵供給源であり、団練を束ねて郷勇が編成される例もあったため、参考書には「団練を統合したものは郷勇 しょうゆう と呼ばれる」という説明も見られる。誤りではないが正確ではない。入試問題のリード文では団練と郷勇を同じものとして扱う表現もあるが、これは誤りである。

一例を挙げれば、淮軍は李鴻章が私財を投じて兵を募り、訓練した団練（民兵）に始まり、後に清朝の命を受け、郷勇に再組織された。その郷勇は日清戦争（1894）で壊滅的な打撃を受けて解散を余儀なくされ、軍の近代化の必要性を痛感した清朝は李鴻章らに新製の軍隊を編成させたが、そこには旧郷勇の将兵が多数参加した。そして義和団事件後の光緒新政（No.165参照）で袁世凱（李鴻章の後継者）のもとに新軍に再編成され、後の北洋軍閥へとつながっていくことになる。こうした事情から「郷勇→軍閥」という単純な理解で出題されることもある。概して、軍閥という用語は袁世凱の死去（1916）以降に使われる。

- 7) 列強は当初中立的だったが、アロー戦争終結（1860）後は清朝の側に立った。特にイギリスははっきりと清朝の側に立ち鎮圧に力を貸した。アメリカ人ウォードや、洋式訓

練をうけた中国人部隊（＝【12: 】）を率いて李鴻章に協力したイギリスのゴードン 1833-85らが有名である。ゴードンは、後に転戦先のスーダンでマフディー国家との戦闘で戦死している。

《復習》図1の■印で示したのは南京条約（1842）で開港を強いられた5港。北から上海、寧波 ニンポー、福州、廈門 アモイ、広州。…既にこの時点で広州が貿易の中心から外れ、重心が上海に移動せざるを得ないことが分かる。

天津・北京条約では、これに加えて更に11港が開港を強いられた。図1の○印がそれである。牛荘、天津、から海岸を南へ、芝罘 チーフー、淡水、台南、汕頭 スワトウ、瓊州 ケイシュウ、長江を上流から漢口、南京、鎮江。

《作業》太平天国軍のおよその進軍路を図1に記入しなさい。

洋務運動の展開と限界

- 1) 同治帝 位1861-75 の時代に、清朝は体制の立て直しをはかった。
 中心となったのは 太平天国の乱の際、団練(郷勇)を率いて鎮圧に活躍した3人の漢人官僚
 曾国藩 そうこくはん1811-72、李鴻章 りこうしょう1823-1901、【13: 】きそうとう1812-85 であり、後に彼らは【14:
 】と呼ばれた。彼らは1860年ごろから西洋の軍事技術などを導入して富国強兵をはかろうとした。例えば、左宗棠は太
 平天国の乱の時曾国藩(ほぼ同年齢)の部下だったが、乱後は地方総督となり、福州に造船所を建設 08K し、この運動
 の先駆けとなった。
 この時期の(1860年以降の) こうした近代化運動を後に【15: 】と呼ぶ。
 海軍の創設、洋式軍隊の編成などの軍事にとどまらず、鉱山開発、鉄道敷設や兵器・紡績・製鉄・造船など各種
 工場の設立等を実行した。資本は中国の民間の資本を国家の管理の下で利用した。
 上海を中心に外国企業(銀行、商社)のオフィスビルも建造され、多くの留学生を日本や欧米に送り出し、「近代
 文明」を摂取させた。
 太平天国の乱も鎮圧(1864)され、一時的に内政・外交とも安定した時期であったから実行できたのであり、この時期を
 「【16: 】」と言う。皇帝は同治帝 どうちてい 位1861-75 。
 同治帝の母=【17: 】せいいたいごう1835-1908 は改革派と保守派(列強との協調に反対)の微妙なバラン
 スの上に実権を維持していたが、彼女も洋務運動には支持を与えていた。
- 2) この時期の(1860年以降の)近代化運動はいくつかの課題を抱えていた。まず、地域のリーダーである郷紳は儒教的価値
 観を強く持っていたため、キリスト教を邪教として排斥する【18: 】も起こっていた。また、洋務運動の理念は
 「【19: 】」ちゅうたいせいよう という言葉に集約されるが、これは西洋の技術のみを導入して儒教などの
 精神や制度を温存する、という意味であり、これでは保守派と変わらない！
 「中体西用」とは逐語的には、中国の伝統文化(中)を体し、西洋の学術(西学)を用する、という意味。
 体=土台、ものごとの中心。本体。 / 用=道具。用具(典拠：角川漢和中辞典)。
 「中体西用」は同時代の思想家魏源 ぎげん1794-1856 の造語だとされている。彼はアヘン戦争勃発時に林則徐の依
 頼で当時の最新の知識を織り込んだ世界地理書、『海国図志』を著した。その中に「夷をもって夷を制す」とい
 う表現があるが、西洋人どうしを戦わせるという意味ではなく、西洋に対抗するため西洋の力をわがものにすべ
 きだという自己改革的な意味。幕末の日本にも影響を与えた。「和魂洋才わこんようさい」は「中体西用」の日本ヴァ
 ージョンとして造語された可能性がある。
- 洋務運動の限界は、日清戦争で露呈した。外国から購入した高価な最新兵器を実戦で使いこなせなかった。たとえば、北
 洋艦隊整備の一環として1882年ドイツから購入した当時としては世界最大級の戦艦「鎮遠」は日清戦争中に未熟な操艦から
 座礁、日本軍に捕獲され、日露戦争で日本の軍艦として使用された。
 洋務運動の本質は、【20: 】の延命を目的とした表面的な近代化であったこと。
 図版によるこんな出題もありうる：どの教科書にも出ている「南京の金陵機器局」の写真を示して、これは何を
 示しているかという問題 <解答例> 「西洋近代兵器を操作するのは辮髮姿の官僚であることから、洋務運動
 における中体西用の本質をよく現している。」
- 3) 洋務運動は、その限界から、【21: 】を避ける結果となったばかりか、運動の中心が力のある大官僚で産業の育
 成を重視したこと、いきおい洋務派大官僚が企業を私物化し、著しい官民癒着という弊害を招いた。同時に地方への
 権力の分散と、【22: 】の成長に道を開いた。なにしろ、洋務派大官僚はもとをただせば清朝の命を受けた義勇軍で
 ある郷勇のリーダーであり、自らが育成した産業装置を守るため彼らの個別の軍力は強化された。背後にはそれぞれ外
 国勢力が支援し最新兵器を供給した。彼らは、袁世凱の死(1916)以降は軍閥と呼ばれ、民衆を封建的に支配・搾取し、
 中国の統一と近代化にとって最大の障害となった。

《蛇足》「偉大なるロシア帝国」に関連してケーキの「しべりや」 No.153関連記事

ケーキ屋さんではなくパン屋さんで作って売っているケーキである。商品名は「しべりや」。
 ロシアの地理を表す用語としては、もちろん「シベリア」が正しい。

明治以来(あるいは大正以来)の伝統の商品とのこと。ロシアといえば、巨大なコッペパンに
 砂糖のコーティングをした「ロシアパン」や大きなクッキーの中央に大きなドライフルーツを載
 せた日持ちのする「ロシアケーキ」というものもある。

「しべりや」の語源は諸説あるが、庶民にとって「シベリア」という言葉には、ヨーロッパ・
 ロシアにつづく、手に届くセレブに近い語感があったようだ。本来の洋菓子とは言えなくても、
 カステラで水羊羹をはさむことによって生まれる強烈な甘味も当時は魅力だった。朝鮮を確保す
 るためにそのロシアと戦争し、第二次世界大戦後は元兵士多数がシベリアで亡くなった後でも人々は「しべりや」を食べ続けた。今や製造し
 ているパン屋さんは少なくなった。これには戦後の嗜好の変化も影響している。

宮崎駿先生の最終作(?)『風立ちぬ』(2013)の主人公堀越二郎が「しべりや」を買ってお腹を空かせた子どもに与えようとするシーンが
 ある。子どもたちに拒絶され、友人からは「偽善だ」「妙なものを食うな」と非難される。庶民の間で「知らない人から頂いた食物は食べて
 はいけない」という教育は古くから行われ、著者の世代もしっかり教えられた。ここにはそうした戦前の子どもたちが保持していたプライド
 が描かれていると同時に、不況下に軍需産業に従事して豊かな生活を享受していた主人公への批判が込められていることは間違いない。この
 批判をふまえてさらに考えると、「しべりや」と名づけられた「妙な」ケーキを平気でぱくつくという行為自体が問題視されているようにも
 思えてくる。先に「しべりや」の語源には諸説あるとしたが、そのひとつに「戦争特需にわいたシベリア出兵にちなむ」という説があって考
 えさせられるのである。

